



2・3月号

発行所
水戸市千波町1918番地
茨城県総合福祉会館内
公益財団法人茨城県消防協会
編集発行人
消防協会長 葉 梨 衛
印刷所
富士オフセット印刷(株)
1部 15円
(購読料は年会費に含まれています)

消防職員意見発表会

茨城県消防長会主催の第三十八回全国消防職員意見発表茨城県大会が、平成二十七年二月五日(木)に小美玉市四季文化館のしれで開催されました。県内各消防本部から一名が出場し、真摯で熱気あふれる発表会となりました。

《審査結果》

・最優秀賞

日立市消防本部 野村 泰介
「あなたの心にシエイクアウト」
「害を共に生き抜くために」

・優秀賞

稲敷広域消防本部 小泉 亮人
「レスキューホイッスル」

・優秀賞

筑西広域消防本部 下山 貴裕
「広げよう、救命の輪」

・優秀賞

茨城町消防本部 横地 真人
「餅は餅屋」

最優秀賞の野村泰介さんは、四月二十二日に行われる第三十八回全国消防長会関東支部大会に本県代表として出場する予定です。

ここに、最優秀賞の発表内容をご紹介します。

「あなたの心にシエイクアウト」

～災害を共に生き抜くために～

皆さん、近頃自主防災訓練の参加者が少なくなってきたかと思いませんか？それも失礼ながら会場にはお年寄りしか見かけないような気がしてなりません。若者はどこにいますか？

これは、東日本大震災の被災地でもあった茨城での所属管内地域の印象です。これが高齢社会の現実なのでしょうか。2025年問題という10年後に迫る団塊世代の高齢社会を考えた時、逃げまどう人、あきらめてしまう人を想像するだけで、大きな不安と「これじゃいけない」という気持ちが高まりました。

そのようなとき、昨年暮れに長野県で発生した地震では、多くの全半壊家屋があったにもかかわらず、死者ゼロという結果となりました。地震後の調査によれば、「共助」が生きたと言います。このように地域の結束力を強固にするためには、これから先、市民の気持ちをどのよう意識づけていけばよいのでしょうか。

そこで「シエイクアウト」訓練を取り入れてみませんか。

シエイクアウトとは、地震の時にあなたを守る3つの行動トレーニング。「姿勢を低く・頭を守る・動かない」の行動を同時にとるだけの一斉防災訓練です。集合せず訓練時刻を合わせるだけなので、どこでも誰でも気軽に参加でき、大規模な訓練が可能です。また、大勢の人々が参加しているという事実が参加者の防災意識を向上させます。アメリカでスタートし、これまで全世界で2600万人、国内でも420万人が参加していると言われ、すでに実際に行われている自治体もあると聞いています。

私はこの「シエイクアウト」に地域の人々が触れ合える事前学習の場を設け、結束力を強化しようと考えました。

名付けて、「シエイクアウトチャンネル」方法はず、シエイクアウト」を小中学校のカリキュラムに加えてもらい、子供たちの参加を確保することがポイント。さらに自治会の参加も促し、小中学生を交えた地域ごとのグループに分かれ、若い若きも関係なく地域ごとに考えられる災害、地域にどのような危険が潜んでいるか意見を出し合い、それを基に防災・減災をテーマとした動画制作をするのです。例えば、小中学生がリーダーとなり、高齢者から災害体験や防災の豆知識などを聞くという具合に。それを「シエイクアウトチャンネル」と名付け、ローカルテレビやホームページ、ソーシャルメディアなどで配信することにより、別の場所に参加した住民をはじめ、地域全体で情報共有を図ることができま

す。しかし、最も大事なことは、年齢や世代にとらわれず同じ目的を持って行動する、ということにあります。一斉にア



最優秀賞を受賞した野村さん

クションを行う「シエイクアウト」はまさにうってつけで、一緒に踊りを踊るような感覚で親近感が生まれます。「シエイクアウトチャンネル」の動画制作も含め、もう他人ではありません。お互いの名前を知り、日常に挨拶が生まれ、会話も広がる。もし災害が起きたら、その人たちが放つてはあげないでしょう。災害に対抗できる一番強い力「共助」。高齢社会を突き進む今日、その力が揺らいでいます。過去の大規模災害を知らない子供達と、伝承すべき知識を持った高齢者が手を取りあうことで防災・減災の芽はきつと未来に花開くはず。誰もが経験したことのない災害が起きているこの国で、人とのつながりの重要性を次の世代に確実に伝えるため、今、「シエイクアウト」があなたの心を揺り起こす。

平成二十六年 第二回定時理事会・臨時評議員会開催

平成二十六年度公益財団法人茨城県消防協会第二回定時理事会と臨時評議員会が、三月二日(月)に茨城県総合福祉会館において開催されました。

会議は、まず、理事会と評議員会の議案及び報告案件が同内容であるため同時開催としたことを説明した後、会議定足数の確認(理事数三十二名のところ出席者二十五名、評議員数三十六名のところ出席者二十九名で過半数を超え、会議が成立。)が行われ、その後、葉梨会長から主催者の挨拶、続いて来賓の田中理事兼防災・危機管理局長からそれぞれご挨拶を頂きました。ご臨席頂いたご来賓は



主催者挨拶

平成27年度の主な行事予定

Table with 4 columns: 番号 (Number), 行 事 名 (Event Name), 期 日 (Date), 場 所 (Venue). It lists 25 events including various council meetings, training sessions, and award ceremonies throughout the year.

次の方々です。
・ 眞理事兼防災・危機管理局長 田中 豊明 様
・ 眞消防安全課長 関 武志 様
・ 眞立消防学校長 齋藤 亨 様
評議員会の議長は、葉梨会長が議長となり、続いて議事は、山内 評議員会の議長(石岡市消防団長)が議長となり、

直行様)及び評議員会の議事録署名人(那珂市消防団長 大森利光様/笠間市消防長 橋本泰享様)を選出(理事会は定款の規定により会長及び監事)し、議案が審議され、それぞれ原案どおり承認・可決されました。(第一号から第二号議案については、理事会の議決事項であり、評議員会は報告事項となっています。)
○第一号議案
平成二十七年事業計画(案)
○第二号議案
平成二十七年収支予算(案)
○協議事項
平成二十七年の主な行事予定

平成二十六年 消防関係者叙勲・褒章等受章祝賀会

当協会主催の消防関係者叙勲・褒章等受章祝賀会が、平成二十七年二月十日(火)に、水戸京成ホテルで開催され、受章者並びに消防関係者総勢八十九名が出席し、先輩達のご功績を讃えました。

当日は、大変お忙しいところを出席頂いた橋本知事並びに山岡県議会副議長からご祝辞を頂戴し、その後、瑞宝双光章を受章された元高萩市消防団長の細金秀隆氏が、受章者を代表して謝辞を述べられました。祝宴は限られた時間ではありましたが、先輩方へのお祝いの言葉やお互いの近況などが語られ、終始和やかな雰囲気の中、ご歓談頂きました。



受章者代表謝辞：細金秀隆氏

平成26年度 消防功労者表彰

平成二十六年年度茨城県消防功労者表彰式が、平成二十七年二月二十三日(月)、県庁「第一応接室」で行われました。

当協会からは、来賓として葉梨会長はじめ、七名の役員が出席しました。

今年度は、「功労章」が十三名(消防団長五名・消防長八名)、「表彰状」が九名(元団員三名・元職員六名)、合計二十二名の方が受章されました。

「功労章」とは、「多年災害現場において消防業務に精励するとともに、指導者として功績顕著な者」として現職の消防団長及び消防長に授与されるものです。

また、「表彰状」とは、「多年消防業務に精励するとともに、退職後も地域の消防防災活動に尽力されている者」として元職の消防職・団員に授与されるものです。

この表彰は、県消防大会における知事表彰とは別枠のものであり、このように元職をも対象として消防大会以外に定例的に行う表彰制度は、全国的にも例のないものです。

今年度の受章者は、次のとおりです。

「功労章」(十三名)

石岡市消防団

団 長 山内 直行

龍ヶ崎市消防団

団 長 堀越 武

常陸太田市消防団

団 長 益子伊三三

高萩市消防団

団 長 作山 吉平

牛久市消防団

団 長 山岡 恒夫

日立市消防本部

消防正監 寺門 泰弘

高萩市消防本部

消防司令長 斎藤 祐二

取手市消防本部

消防 監 北澤 達也

常陸大宮市消防本部

消防 監 堀江 修

大子町消防本部

消防司令長 石井 修

常総広域消防本部

消防正監 鈴木 重昭

稲敷広域消防本部

消防正監 酒井 健生

ひたちなか・東海広域消防本部

消防正監 川崎 靖夫

「表彰状」(九名)

元 常陸太田市消防団

分 団 長 浅野 文夫

元 常陸太田市消防団

分 団 長 市毛 彰

元 茨城町消防団

副 団 長 印出井利美

元 大子町消防本部

消防司令 高信 芳久

元 大子町消防本部

消防司令 根本 信良

元 鹿島地方消防本部

消防司令長 伊東 壽夫

元 鹿島地方消防本部

消防司令長 吉沼 正志

元 稲敷広域消防本部

消防司令 大竹 勉

元 稲敷広域消防本部

消防 監 宮本 滋美



消防功労者知事表彰受章者

第六十七回
日本消防協会
定例表彰式

平成二十六年年度の日本消防協会定例表彰式が、平成二十七年三月十日(火)ニツシヨールホールにおいて厳粛かつ盛大に挙行されました。

式典は、厳かに日本消防協会旗の入場で幕を開け、国家斉唱、消防殉職者に対する黙祷、秋本会長の式辞と続き、各表彰の授与が行われました。

本県関係の受章者は、次のとおりです。

※()は受章者総数

○優良消防団(表彰旗)(四十団)

・神栖市消防団

○優良消防団(竿頭綬)(九十団)

・石岡市消防団

・取手市消防団

・阿見町消防団

○功績章(九百五十八名)

・常陸太田市消防団

副 団 長 石川 重信

他二十六名

○精績章(二千二百八十三名)

・水戸市消防団

分 団 長 雨谷 克己

他六十七名

○勤続章(七千四百九十一名)

・水戸市消防団

分 団 長 小森 雄三郎

他百六十二名

消防団充実強化推進事業

県では、消防団活動における団員の安
全確保の向上を図るため、市町村が行う
消防団の安全装備品の購入に要する経費
の一部を助成します。

○主な補助対象装備品

救助用半長靴、救命胴衣、トランシー
バー

※市町村からこれら三品目以外の安全
装備品(耐切削性手袋、防塵メガネ、
防塵マスク、防火手袋)について要
望があった場合には、別途協議に応
じます。

○補助基準額 (二市町村当たり)

二、八〇〇円(団員一人当たり基準額)

×消防団員数

○補助率等 二分の一×交付率※

※各市町村の財政力指数により設定

○・七五未満⇒一〇〇%、

○・七五以上一・〇未満⇒七十五%

一・〇以上⇒五十%

○事業期間 三ヶ年

平成二十七年年度から平成二十九年度

○問合せ先

茨城県 生活環境部 防災・危機管理局
消防安全課

○二九一三〇一―二八九六直通



第三十二回 火災予防ポスターコンクール表彰式

小・中学生を対象とした火災予防ポ
スターコンクールの表彰式が、平成二十
七年二月十七日(火)県庁「第一応接室」
で開催され、橋本知事から表彰状が授与
されました。

このコンクールは、茨城県幼少年婦人
防火委員会(会長・橋本知事)の主催で
毎年行われ、十二月十一日に開催され
た「ポスターコンクール審査会」において、
入選作品が決定しました。

県内各地域から推薦された二百二十一



表彰式(右から住谷永遠くん、野川佳鈴さん、知事、矢吹静流さん)

点が審査会に掛けられ、厳正な審査の結
果、次の三名が「最優秀賞」に決定しま
した。

・小学生低学年の部

那珂市立額田小学校

二年 住谷 永遠くん

・小学生高学年の部

取手市立白山小学校

五年 野川 佳鈴さん

・中学生の部

那珂市立第四中学校

三年 矢吹 静流さん

なお、最優秀賞の中から、『野川佳鈴
さん』の作品が火災予防ポスターの「原
画」に決定しました。

編集後記

茨城消防も今回が今年度最後の発行と
なりました。発行にあたりご協力頂きま
した皆様に改めてお礼いたします。

なお、皆様からの寄稿文や様々な情報
を心よりお待ちしております。

また、広告掲載を募集しております

(掲載料・掲載一回税込み五千四百円、
掲載サイズについては誌面四頁の掲載広
告を参照して下さい)。是非、ご連絡く
ださい。(キ)

全国シェアNo.1の消防車メーカー
(株)モリタの各種消防自動車
常に最新技術を反映して様々な災害
現場で活躍する消防車を制作します。
その他の取扱品目
小型動力消防ポンプ・消防用ホース
救助資機材・潜水機材・消防用被服
防災用品・消防用品・消防資機材
茨城県代理店 有限会社 鈴 機
〒315-0014 石岡市国府5-2-25
TEL:0299-22-3010 FAX:0299-22-5846

Panasonic
自動火災報知設備
非常電源設備
自家発電設備
CVCF設備
FAX、パソコン
パナソニック株式会社 特機商品代理店
株式会社入江電機工業所
本 社 〒310-0031 水戸市大工町2丁目3番23号
TEL.029-224-4614(代表)
FAX.029-224-4613
千波営業所 〒310-0851 水戸市千波町海道付2027番地
TEL.029-241-3636(代表)
FAX.029-244-0540
土浦営業所 〒300-0061 土浦市並木1丁目2番20号
TEL.029-821-8498(代表)
FAX.029-822-6575

トーハツ 小型消防ポンプ
充実のVシリーズ
V75ESからV10Fまで
豊富な機種でお客さまのご要望に
お応えいたします。
消防ポンプ自動車 消防用ホース
消火器 消防服装
消防資機材用品一式
茨城県代理店
トキワ産業株式会社
水戸市東原3-6-24
TEL.029(224)3324(代) FAX.029(224)3360